

## 処理場

夏らしい、という報道——  
今日は歩くことを実践した  
宇宙の中にある  
このきらきらとした異質な世界  
湿った風が吹き荒れ  
布袋腹を持つ「生きもの」の群れ

そもそも  
押し付けられた生命  
強制された生  
そこに理由などない  
死を選ぶことにも  
理由など必要ない

あらゆる形象が溶解し  
既に五感は失われている  
僕、という一人称——  
それは何処に埋葬されたのか  
現在、という部屋——  
それは動いているのか

平らな——  
直流のオシロスコープ  
活動停止の心電図  
だが  
平らであることが  
即ち無であるとは限らない

五感を剥奪された中であって

なお在る、ということの  
吐き気のする煩わしさか  
いや、それとも  
剥奪された虚栄の愉悦——  
そのおぞましい顔貌か

地平に穿たれた抽象  
自動的に維持される鼓動  
それらは静かに去勢してゆく  
「生きもの」どもを・・・

(2012.6.10)